

第3子以降に出産祝い金は？



大原 広巳 議員

町長

子育て支援の充実で対応する



子どもは地域の宝

【大原】10年後、20年後の人口推計は。

【町長】今のペースが続けば概算で、総人口1万7000人から1万3700人、1万1500人となる。また、20歳未満は、2560人から1760人、1390人となる。出生数の減少が課題となっている。

【大原】少子高齢化が進み、地域の活力が失われている。特に出生率が落ち、本町では出生数が年間100人を切っている。団塊ジュニアの子育て世代に、多子化のきっかけとして、旧大山町が行っていた、出産祝い金（100万円）制度を検討してみないか。

【町長】第3子以降、2歳から保育料を無償化している。また、子育て支援センターを中心に、総合的に他町に負けない子育て環境を充実させている。これで多子化を促していく。現在、出産祝い金は考えていない。

親元就農制度の今後は？

町長

周知拡大を図る

【大原】1年目の成果と課題は。

【町長】平成26年度は6人が本事業を活用し、ブロッコリーや稲作栽培、酪農などの研修中である。本年度もすでに3人がスタートしている。

【町長】婚活コーディネートとも協議する。また、広域的な取り組みも農業団体などと協議する。

運用上の不備は聞いていないが、周知を徹底し、拡大を図りたい。専門農家の担い手減少を少しでも食い止めた

【大原】若い担い手ばかりでなく、中高年の担い手も多くなる。今後長く営農を続け、集落の力となつてほしいが、独身者が多い。農業者に特化した婚活事業はできないか。



後継者の定着に期待